

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	ダブルトラクト再建による腹腔鏡下噴門側胃切除と腹腔鏡下胃全摘の比較検討
	研究目的	胃上部の早期癌に対する噴門側胃切除術は縮小手術とされており、標準術式が定まっていないのが現状である。当院では胃上部早期胃がんに対して腹腔鏡下・ロボット支援下噴門側胃切除術、ダブルトラクト再建(LPG)を施行している。今回、至適な術式を検討するために腹腔鏡下・ロボット支援下胃全摘術、Roux-en-Y 再建(LTG)と臨床結果について比較検討し、その安全性や有効性を明らかにするために行う。
	研究対象者	2016年1月から2021年5月まで、当院でLPG(ダブルトラクト再建)、LTG(Roux-en-Y再建)を施行した胃癌患者77例(LPG20例、LTG57例)を対象とした。
	研究期間	西暦 2022 年 3 月 28 日 ~ 西暦 2025 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	末松秀明
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし